ECO News | No.50 1997.3 | 発行：ＥＣＯ　Ｎｅｗｓ
筑波大学学術情報処理センター

ＥＣＯＮｅｗｓ５０号の発行、そして新たな展開に向けて　中山和彦

ＥＣＯＮｅｗｓも50号を迎えました。1988年４月に第１号を発刊してから丸８年になります。この間、ＥＣＯの活動にご協力下さった多くの方に感謝を捧げます。本当に有り難うございました。

創刊号に「教育におけるコンピュータ利用の方法にはいろいろな形態が考えられ、このニューズレターはコンピュータをどのように教育の道具として用いていくか、子どもが情報リテラシーをどのようにして身につけていくか」についての情報交換のために用いたいと書きました。

最初はシステムの名称も「クラスルームＣＡＩ」で、ＥＣＯＮｅｗｓの内容もＣＡＩに関するものが中心でした。しかし、システムも「スタディシリーズ」と発展改称され、利用している学校の幅や、ＥＣＯＮｅｗｓの内容にも広がりがでてきました。所期の目的を概ね達成できたのではないかと評価しています。

スタディシリーズの中心は、学習目標として示されている内容の完全習得を目指したＣＡＩ学習のためのシステムと、お互いのノートを共有して協同学習を実施するとともにインフォーメーションリテラシーを学習者自らが身につけていくことを目指したスタディノートの２つです。この２つは車の両輪のようなものだといえます。

スタディノートはいろいろな形で用いることができ、先生の個性を発揮したお手製の学習を実施することができるので、腕の振るい甲斐があると思います。近くインターネットにも直結できるようになるので、今後のさらなる発展が大いに期待できます。ぜひ、試してみて下さい。希望の方はＥＣＯＮｅｗｓ係までご連絡下さい。

この欄を借りてご挨拶をさせて頂きます。私は３月で筑波大学を定年退官いたします。４月からは、情報と環境の新しい世紀の市民となる子どもたちのために、コンピュータの教育利用と環境教育について教育現場をお助けすることに専念いたします。

そのために21世紀教育研究所を創設し、そこで仕事をすることにいたしました。大学の近くのビルにオフィスを定め、これまで筑波大学でしていた機能を全部移動させることにいたしました。ＥＣＯのスタッフは全員が今後も協力してくれますので、これまで通りというよりは更にレベルアップしたお手伝いを皆様にすることができるようになります。

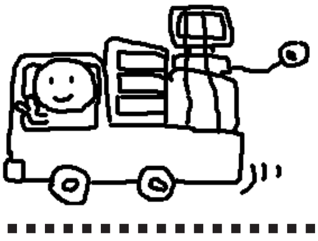
インターネットのホームページを通じて情報を発信することや、ＥＣＯＮｅｗｓも発展した形で発行をすることなどいろいろと新しい展開を計画しています。

連休前発行予定の51号を期待して下さい。

ＥＣＯＮｅｗｓ移転のお知らせ

中山先生が筑波大学を定年退官するのにともない、1997年４月１日以降、エコニュースは、中山先生が新しく始める２１世紀教育研究所に移転いたします。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。なお、４月１日からの住所は下記のとおりです。

住所：〒３０５　茨城県つくば市天久保４－３－１０
２１世紀教育研究所内エコニュース係
Ｔｅｌ．０２９８－５０－３３２１
『おー筑波！ごお（Ｇｏ）！さぁさ２１世紀へ』と覚えて下さい。
Ｆａｘ．０２９８－５０－３３３０



CAI 実践 20 周年記念『コンピュータ教育利用全国研究大会』

49号でもお伝えしましたが、今年は、つくば市でＣＡＩの教育実践を始めてから２０年目の年にあたります。エコニュースでは、それを記念して、３月８・９日に、筑波大学で研究大会を行います。申込者は２月下旬の受付状況で１２０名を越えており、最終的に１５０名ほどのコンピュータ教育の実践者が集う大会になることが予想されます。この大会で行われる講演や実践発表の題目が決まりましたので、お知らせ致します。なお、今回の大会の概要は、次号のエコニュースでレポートいたします。また、より詳しい内容は、エコニュースのホームページ（URL=http://www.kasei.ac.jp/eco/econews.html）で公開します。

３月８日（土）

講演　中山和彦　『２１世紀の教育と教師の役割』

講演　岡田弘康（茨城県つくば市立並木小学校校長）『ＣＡＩ実践２０年を振り返って』

講演　東原義訓　『ＣＡＩ実践から教えられた貴重な財産とマルチメディアＣＡＩで拡大する学習』

実践発表（ＣＡＩ）　コメント（東原義訓）

・天貝貢（茨城県つくば市立桜南小学校）
『マルチメディアＣＡＩコース「ふくろ作り」の開発と授業実践』

・湯本正芳（長野県飯田市立旭ヶ丘中学校），滝沢雄一（元長野県喬木村立喬木中学校）
『完全習得を実現するコースウェア作成の秘訣』

・丸山福一（長野県松川村立松川小学校）
『人的・物的世代交代を超えて不滅なコースウェア開発と人事異動に伴う実践校の拡大』

・竹内登美子（順天堂医療短期大学）
『看護教育におけるマルチメディア対応コースウエア開発の現状と課題』

実践発表（地域での取り組み）　コメント（余田義彦）

・成田顕宏（ＮＥＴ　コンピュータの教育利用研究会）
『ＣＡＩ推進のための全県規模でのグループ活動とその運営について
　－長野県コンピュータの教育利用研究会の取り組みから－』

・足立雅人（兵庫県氷上郡市島町立三輪小学校），堀博文（兵庫県氷上郡柏原町立崇広小学校）
『氷上郡情報教育研究会の活動－コースの開発と情報教育への取り組み－』

講演　渥美浩子　『カン太君シリーズ開発の目的と実践』

３月９日（日）

実践発表（カブリ）　コメント（垣花京子）

・櫻井孝之（茨城県つくば市立桜中学校）
『カブリを使った図形の性質の発見から証明への指導』

実践発表（研修）　コメント（東原義訓）

・近藤憲司（愛知県豊田市立野見小学校）
『地域研修会の計画・実践ヒント集－豊田市での経験を通して－』

・久保豪史（和歌山県印南町立印南中学校）
『校内研修の計画・実施ヒント集－南部中学校での経験を通して－』

講演　余田義彦　『スタディノート、インターネットを用いた新しい授業の創造』

実践発表（ネットワークの教育利用）　コメント（余田義彦）

・水橋渉（富山県滑川市立西部小学校）
『スタディノートを用いた歴史・理科の授業』

・髙野壽信（富山県滑川市立滑川中学校）
『インテリジェントスクール滑川中学校におけるネットワークを活用した授業』

・森田充、今泉英樹（茨城県つくば市立桜南小学校）
『手作り校内ＬＡＮ・スタディノート・インターネットを活用した授業』

挨拶　中山和彦　『今までのエコニュース、これからのエコニュース』

ＥＣＯ Ｎｅｗｓの新しいオフィス『２１世紀教育研究所』

１ページでお知らせしましたように、エコニュースは、筑波大学から２１世紀教育研究所（所長：中山和彦）に引っ越します。新しいオフィスがどのようなところか興味をお持ちの方が多いと思いますので、簡単に紹介させていただきます。

２１世紀教育研究所は、筑波大学学術情報処理センターから８００mほど東側にあるビルの２階にあります。このビルは、２月２０日に竣工式を終えたばかりの真新しいものです。このビルの南側には、身障者のための短大である筑波技術短期大学があり、そしてさらにその南側には国立科学博物館の筑波分館があるといった環境です。

この記事を書いている時点（２月下旬）では、まだ、引っ越しをしていませんので、新しいオフィスはがらんとしています。でも、準備だけは着々と進めています。ですから、４月１日からは新しい体制で業務を開始し、今まで以上に充実したサービスを提供できると思います。

ところで、新しいオフィスは、今までのオフィスと同様、筑波研究学園都市らしい面白い環境にあります。

たとえば、２１世紀教育研究所の隣には、インターネットプロバイダであるつくばインターネットサービス（TINS）が入ります。ここまで書くと勘のいい方は気づかれると思いますが、２１世紀教育研究所には、エコニュース用のインターネットサーバーが設置されます。そして、サーバーは、そのプロバイダのネットワークに高速で直結されます。ですから、エコニュースは、初夏ぐらいから最高のインターネット環境で、情報発信を始めます（注）。

２１世紀の初めにはほとんどの学校がインターネットに接続されるはずです。インターネットは、プログラムやデータ、音声、映像など様々な情報を瞬時に運ぶことができます。ですから、学校にとっても、郵便や電話なみに重要な通信連絡手段になることが予想されます。エコニュースでどのような情報を提供していくかについては、スタッフの間で色々なアイデアが出てきています。ご期待下さい。

ところで、このビルには、他にも９つの企業や組織が同居します。そのため、それらのコラボレーションが新しい展開を生み出していきそうです。

たとえば、そのうちの一つ、筑波塾（塾長：中山和彦）は、起業家育成を目的として設立された組織です。ここでは、筑波研究学園都市の研究所や大学で研究に従事している理工系エンジニア・研究者を対象に、どのようにしてベンチャービジネスを起こすかについてのノウハウやハウツーを学んでもらう手助けをします。株式会社アスキーの西和彦社長をはじめ、色々な有名人が設立協力者に加わっており、筑波を日本のシリコンバレーにすべく様々な活動が計画されています。

２１世紀教育研究所が入るメックビル

ビルの竣工式の神事に出席する中山先生

筑波塾の設立について記者発表する中山先生
（中山先生の右にいるのはアスキーの西和彦社長）

注．２１世紀教育研究所でインターネットサーバーの本格運用が始まりますと、東京家政学院筑波女子大学で試験的に運用しているエコニュースのホームページはそちらへ引っ越します。

STUDYSERIES ニュース　No.26

■ウィンドウズ版スタディライターVer.2.0の新機能

４月、ウィンドウズ版ライターのVer.2.0が発売されます。先日、そのベータ版を、Ver.1の評価に関わって下さったエコニュース寄託教材作成者の皆さんへ、シャープシステムプロダクトから送付させていただきました。

Ver2.0は、皆さんからの要望を数多く取り入れ、さらに強力に、そして使いやすくなっています。そのベータ版で追加された主な機能を紹介します。

なお、以下の機能を利用して作成した教材は、スタディタイムVer.2.0以上でないと動作しません。ご注意下さい。

画面表示で追加された機能

①ビットマップイメージにGIFとJPEGを追加。

②ビットマップイメージに透明色設定を追加。
（GIF形式ではデータ内の透明色データに依存）

③動画オブジェクトにアニメーションGIFを追加
以上３点は、インターネットの普及を受けての機能強化です。ホームページのグラフィック素材を、変換なしで、そのままコースに取り込めます。

④解答欄とメッセージ欄にフォント設定機能の追加
低学年の教材で、解答の文字を大きくできます。これで、より自然な画面作りができます。

⑤アニメーションコマンド(DOS版の移動に相当)追加
これで簡単にアニメーションが作れます。首を長くして待っていた機能ですね。

⑥マウスカーソルの追加
イメージをマウスカーソルとして画面に貼り付けておきます。そうすると、その画面を表示したとき、マウスカーソルがそのイメージに変わります。

⑦バックグランドイメージの追加
いわゆる壁紙です。面白い使い方ができそうです。

⑧拡張キーにイメージデータの使用を可能にした。
一言でいうと外字のような機能です。拡張キーを押したとき、文字の代わりに特定のイメージデータを表示することができます。

⑨オブジェクトの停止コマンドの追加
これで、音声を再生中に停止させる…なんていうことができます。

⑩テキストオブジェクトコマンドの追加
エディタなどで作成したテキストデータを、そのまま取り込むことができます。

学習制御で追加された機能

①応答カテゴリ 'L' を追加
この行とマッチングすると試行回数をカウントしないで自由記述欄を実行し、再試行する。

②応答カテゴリ 'X' を追加
この行とマッチングするとその自由記述欄を実行しますが、フレームには進まず、次行のマッチングを見にいく。

③マウス入力回答フレームの場合、そのクリックした座標がV72(X),V73(Y)に入る。

④自由記述欄A(　),F(　)の多重計算を出来るようにした。

例：A(V01=V02+V03+V04+V05)
（ただし、A(V01=V02=V03)は不可）

以上の４点は、今まで苦労していたこと、どうしても出来なかったことなどを、簡単に実現してしまえる機能です。具体的にどのような場面で役立つかは、説明が長くなるので割愛します。

ベータ版にはないがVer.2.0で追加される機能

①拡張キーの画面貼り付け機能
仮想的な拡張キーを一個単位で、１フレーム(同時表示時)に12個まで貼り付けることができます。
これでもう、「と」「ぶんの」「…」などに相当するキーをキーボードでさがす必要はありません。画面に表示される拡張キーをマウスでクリックするだけで、それらを入力できます。

コースウェアのご紹介

配布をご希望の方は、初期化したフロッピーと約束書をECO Newsへお送り下さい。フロッピーには、コース名を書いたラベルを貼っておいて下さい。
また、マックで使われる場合は、ラベルに『マック用』と書き添えて下さい。

No.	科目	学年	コース名	ｻｲｽﾞ	作成機関・作成者	児童・生徒の活動とコンピュータの役割
98	理科	中1	力と その表し方	313KB	愛知県豊田市立 高岡中学校 鈴木 洋	グループ実験を支援するコース。生徒はグループで、つるまきばねの伸びと加えた力の大きさとの関係を実験を通して調べ、測定結果をグラフ化し、そのグラフから力とばねの伸びが比例することを指摘できるようになる。コンピュータは実験の手順や方法を提示し、測定結果を受け取るだけでなく、生徒が入力した測定結果をスタディネットを通じて集め、生徒の要望にしたがって、他のグループの測定結果やグラフを提示して学習を助ける．また、実験を行う生徒を、一人一人コンピュータが指名したり、結果を各自で入力できるなど、生徒が主体的に実験に取り組めるよう工夫されている。